（別紙4）　　平成　27　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4271401178		
法人名	社会福祉法人朝日福祉会		
事業所名	グループホーム花応園		
所在地	長崎県雲仙市国見町神代甲952		
自己評価作成日	平成　27　年　7　月　15　日	評価結果市町村受理日	平成　27　年　12　月　10　日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/index.php?action_kouhyou_pref_topjigyosyo_index=true

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人　ローカルネット日本評価支援機構
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1
訪問調査日	平成　27　年　10　月　19　日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

有明海を望む高台に通所・高専賃・有料老人ホーム・支援ハウス・保育園等の施設が有り、施設内の交流が盛んで音楽療法・敬老会・夏祭り・保育園の運動会などは、他の施設の方々とふれあい、園児やその家族ともふれあい、喜んでいらしゃいます。職員と利用者がゆっくりと会話できる時間として、食後の時間を大切にしています。皆様一人ひとりが明るく、たのしく、その人らしく暮らせるように、職員一同支援させていただいてます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

介護理念である「地域の中で自分らしく過ごす」を具現化するために「ちょっとした変化に気づける職員になろう」との目標を掲げ、職員それぞれが入居者の言葉や表情を細かに観察し、家族との連携や職員のチーム力で入居者の安心に努めている。今年度は入居者の高齢化や重度化に伴い入退去が多く、活動範囲が縮小したが、入居者ができる範囲で役割を担い、笑顔で生活できている様子が窺え理念の実践に繋がっている様子が感じられた。法人敷地内に併設された通所施設や保育園から日常的に友人や園児の訪問があり、歳を重ねても友人との関係性を大事にできると共に、日常的に園児と散歩や季節の行事を楽しむ時間を共有する事は入居者の生きがいや喜び、また園児にとっても豊かな人間形成に大いに影響を与えていると窺える。法人全体で地域の介護拠点として相談役を担いながら、認知症サポーターの実習受け入れを行う等、認知症の理解に繋げる活動を行い、今後もますます地域との関係作りに期待が持てる事業所である。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

グループホーム花応園

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域の中で自分らしく過ごす」という理念を挙げ、その中でも、昨年より、「ちょっとした変化に気づける職員になろう」という目標を掲げ頑張っています。	朝礼やミーティングの時間を利用して、入居者の表情や会話の中からその人の思いを把握し、職員全体で入居者の思いの理解や実践に努めている。変化に気づける職員になろうと目標を掲げた事で入居者の表情や言葉を意識でき、観察力の向上に繋がった。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	民家は近くにないが、賃貸利用者や家族、デイ・保育園など、声かけしたり買い物などで交流している。	入居者と地域が日常的な交流を図りたいとしているが、重度化に伴い地域行事に積極的に参加できない課題がある。法人の行事を通して地域と交流の機会を持ち、管理者が地域の認知症家族の相談役となることで制度の理解や介護技術を伝え安心感を持った在宅での生活に繋がる取組がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内の行事については、全員参加することは出来ないが、数名でも、参加している。地域ケア会議にも参加している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自己評価等の報告、アドバイスを頂いている。園の現状報告や研修報告を行っている。	会議では日頃の状況を伝えると共に入居者の経過報告や事業所の方針を伝え、ホームでの生活の理解や有事の際の協力に繋げている。今年度は外部評価を受審するにあたって自己評価を参加委員に示し、ホームの取組状況や課題等を振り返り、運営や実施状況の理解を図った。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	認定調査等で来訪された時は、園内を見ていただき、理解をしていただいている。	推進会議を利用して、市町村職員へ制度や動向の説明を依頼し会議参加者へ介護報酬や今後の変化への理解に取組んだ。実地指導や集団指導において制度管理や介護計画の作成について指導や助言を受け適切な事業運営に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、研修を受講したり、内部研修を行っているが、手の掛かる方が多くなり余裕がなくなってきている。	今年度は「不適切ケア」について研修を受け、言葉遣いや接遇マナーの実践に取組んだ。重度化に伴い介護の必要性が増しているため咄嗟に「ちょっと待って」の言葉が出てしまうが、職員間で連携を図り言葉での拘束に繋がらないよう努めている。今後も言葉遣いに関しては注意を払い、スピーチロック（言葉による拘束）に関しては職員間でも課題と感じているところである。	現在入居者の希望により4本柵の使用を確認した。布団のずり落ちや寝返りでの不安が理由とのことだが、対応の再検討や入居者の不安材料を取り除く努力、また、拘束に該当する内容を再度見直すと共に同意書を準備する等今後の取組に期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待についても研修を行っているが言葉にもっと注意していかなければならない。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を受けているが、現在必要と思われる方はいらっしゃらない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族に対し説明は行っている。また、要望等を尋ねたりしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を利用している。デイ等の他の施設職員等に聴いた時は連絡して頂く様にしている。	毎月発行されている事業所便りには入居者の写真と共に職員の言葉を記し、面会時にも気づきや生活状況をこまめに説明することで、現状の理解に努めている。年1回開催される家族会を兼ねただご汁会では入居者と家族が一緒に食事を楽しみ、家族間の交流や意見交換の場として活用する取組がある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回職員会議を行い情報交換、内部研修、ケアプランについて話し合っている。	管理者と職員が同じ目線で業務を行うことで入居者の状態や業務の流れを共有し、お互いに声を掛け合いながらチームワークが図られている。お互いにアイデアや提案を投げかけ、一緒に考えることで存在を確認し合い、職員の意欲の向上や現場力の向上に繋がっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自分たちの思いどうりに運営させてもらっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修・資格試験等受けるように進めている。広域やGH連絡協議会等の研修については、ほぼ誰かが参加するようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修等で知り合いを作り、情報交換を行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	法人内のデイ利用者の入所が多いが、今年度は、他のケアマネより相談を受けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学・相談はいつでも受け入れているが、入所前に相談に来られる方は少なく、居宅ケアマネを通してである。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	居宅ケアマネを通し相談に来られるので、直接相談に来られることはない。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食後のゆっくりした時間に会話や歌などを楽しんだり、レクなどを通し教えたり、教えられたりしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	居室に関しては、家族と利用者に任せている。行事の案内状など、利用者の手書きにして、出来るだけ面会に来て頂けるようにしているが、個人差が激しい。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	デイ利用者で近所の方と会ったり面会に来ていただいている。本人からの要望は、ほとんどない。	重度化に伴い自筆で宛名を書くことが困難な入居者も増えたが、職員が準備を整え家族あてに手紙を書く等入居者と家族の繋がりを大事に考えている。母の思いが家族に届き面会に繋がった事例もある。敷地内に併設された通所施設を訪問し、友人と会話を楽しむ入居者もおられ、生きがいや喜びに繋がっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	調子によって変わるが、支え合えるように普段から、声かけなど行いかかわりを持ち、場合によっては間に職員が入るようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	出来るだけ家族に声かけしたり、行事を行ったりしているが、参加して頂けない方もいらしゃる。これからも、声かけしていきたい。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話から、利用者の希望や意向などを聞くように努めている。	重度化に伴い意思疎通が困難な入居者も増えてきているが、入居者の言葉や表情から、その人が大事にしていたこだわりや思いを汲み取り、職員間で共通理解し気持ちに寄り添うよう努めている。入居者がわがままを言える関係作りを大切にし、その人らしく生き生きと気持ちよく過ごしてもらえるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や利用者に話しを聞くようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝バイタルチエック等を行い、その日の体調や心身の状態を見て過ごし方を判断している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の意見と家族の意見を聞き、モニタリング表をつくり、職員で話合っている。	介護計画作成時においては家族の意向を確認し、職員間で現状や課題を職員間で話し合いながら作成されたものとなっている。介護支援経過には状態変化や計画に対する総論が記録され、医療面や精神状態に合わせ適宜計画の変更や見直しが行われている。生活記録を充実するよう期待したい。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づいた事は書いているが、日々の細かいことまでは書けていないところがある。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家に帰りたいとおっしゃる方は、家族の協力がある場合は、自由にしていただいている。電話についても自由に使用できます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	同じ事業所を通じ、地域と繋がっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前にかかられていた病院をそのまま、受けれるようにしている。	入居以前のかかりつけ医を継続受診し、健康チェック表を基に主治医と連携を図りながら適切な医療に繋げる取組がある。入居者ごとに受診ノートを準備し、受診毎に職員からの確認事項や医師からの指示・伝達を記録し、家族への連絡や職員の共通理解、次回受診までの経過観察に役立てている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	病院受診等も職員全員で行うようにしている為、情報も全員で共用できるようにし、何かあった場合は、看護職に相談、支持をもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	出来るだけ早く退院させてもらえるように、相談したり、面会に行った時に状態を聞くようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に伴って、事業所が対応し得る最大のケアについて説明を行っている。	職員は入居者や家族の希望に添うと共に、できるだけホームで生活できるよう医療との連携を図りながら支援に努めている。今年度は入居者の重度化に伴い入退去が多い年となったが、今後もホームで安心して過ごせる場所となるよう食事形態等検討を重ね、取組む意向である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルはある。普通救命講習を毎年何名か受講し、出来るだけ2年に1度更新できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	消防署の協力を経て避難訓練、消火器の使い方などの訓練を行い、自主的に避難訓練も定期的に行っている。夜間誘導マニュアルを他の施設に渡している。	定期的に自主訓練を実施し、初期消火や通報の手順の確認や入居者ごとの避難誘導方法を見直し、有事の際に慌てず動けるよう取組んでいる。総合避難訓練では敷地内事業所へ見取り図の配布や応援態勢を再確認し、法人行事の際に地域住民に向け協力依頼を行っている。今年度は備蓄品の準備に取組むと同時に入居者の避難誘導がスムーズにできるようベッドの高さ等見直しも行った。	現在定期的な訓練の実施があるが、火災訓練のみに留まっているため、自然災害へ備え地域の特性や地盤等の確認を行うようお願いする。また、自動通報装置の登録先を地域の方に依頼するなど職員間で話し合いの機会を持ち、更なる安全に繋がるよう今後の取組に期待する。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけについては、馴れ合いになり、きつい言葉になってきている。職員一人ひとりがもっと、注意していく必要がある。	重度化が進み動作が理解できないなど意思疎通が困難な入居者も増えているが、行動や表情を見ながらその方の意思を把握し、気持ちにより添った支援に取組んでいる。家族の了解を得たうえで慣れ親しんだ呼び名で声かけを行うが、言葉のかけ方や態度に注意し尊厳を傷つけないよう取組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が決める場面を作っているが、重度化に伴い、決めれる人が少なくなっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	全部が全部、利用者の希望通りにはいかないが、出来る限り対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服は家族が持ち込まれたものである。髪については園でカットしたり、家族がカットに来られたりしている。また、希望者については毛染めも行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	全員ではないが、能力に合わせて出来る範囲でやっていただいている。	入居者ができる範囲の役割を担い、食事中から食器の手入れ（片づけ）まで入居者と職員が輪になり会話を楽しまれている。彩りよく盛り付けられた器には地元の野菜を使用し、入居者の摂取状況や好みに応じて味付けや調理方法が検討されている。体調に応じて食事形態に変化をつけ家族の協力を得ながら支援に努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日常的とはいかないが、飲み物は何種類か用意している。家族が持ってきて下さったものは一緒に食べたりしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で出来る方は声掛けし、義歯の方は夜間薬につけたり、出来ない方は、毎食後のケアを行い、嚥下障害による肺炎の防止などに努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を利用し、尿意の無い利用者の方も時間を見計らって誘導することにより、トイレで排泄出来る様に支援している。	トイレでの排泄を基本とし、定期的な往診によるリハビリを受け、日常の中に立ち上がりや歩行を取り入れることで日中のみパットを使用しない取組がある。定時誘導することで車いすから手引き歩行まで回復できた事例や皮膚疾患の軽減、入居者の自信等生活への変化に繋げることができた。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	リハビリ体操と水分補給を行い、便秘対策に取り組んでいるが、ほとんどの方が、薬を処方して頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴を拒む方に対しては、言葉かけや対応の工夫、チームプレイ等によって、一人ひとりに合わせた入浴支援を試みている。	入居者の生活リズムや体調に合わせて入浴の声かけを行い、友人同士での入浴で寛ぎながら会話を楽しめるよう配慮している。重度化した入居者には職員2名体勢で入浴を支援し、毎日入浴を実施することで清潔が保て、職員が毎日皮膚状態を確認しトラブルの悪化を防ぐ取組がある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく、日中の活動を促し、生活リズムを整える様に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人記録に薬局より頂く薬の説明書をファイルしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日とはいかないが、出来るだけ行事などを工夫するようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節や地域の行事に応じて戸外に出かける等、積極的に外出している。	重度化に伴い車いす使用者が増え移動も困難となっているが、車内から紅葉や季節の花を眺め四季を楽しめるよう支援に努めている。定期的な受診の機会や個別に対応した買い物に出かけ、また、法人の園児が園庭で遊ぶ様子をテラスより眺め気分転換が図られている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事業所で管理している。外出時や買い物などは自分で払っていただいているが、出来ない方が増えてきている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	行事の案内状を手書きで出すようにしているが、普段、手紙のやり取りを行っていらしゃる方はいない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂から有明海が見渡せ、また、近所も見える。すぐ下に広い園庭や東屋もある。	明るい日差しが差し込む共用空間では入居者が足を伸ばして過ごせるようソファや膝かけが準備され、入居者が思い思いの場所で寛ぎながら過ごせる空間が準備されている。ホール中央では職員が調理する香りも楽しめ、入居者が自由に居室を行き来し歌や会話を楽しまれている様子が印象的である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファをいろんなところに置いており、それぞれに応じて座っていただける。居室にも自由に出入りできる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	部屋作りについては家族にお願いしている。持ち込みも色々でその人らしい部屋になっている。	入居者や家族がゆっくりと過ごせるよう思い思いの家具や手まわり品、趣味の道具が持ち込まれ、家具の配置や向きなどその人らしい生活に繋げる工夫がある。馴染みの品物を身近に感じることでその人の安らぎに繋げ、居心地の良い空間作りに努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の身体状況に合わせ、目印や物の配置や補助具等を利用し、配慮している。		